

Triennale School

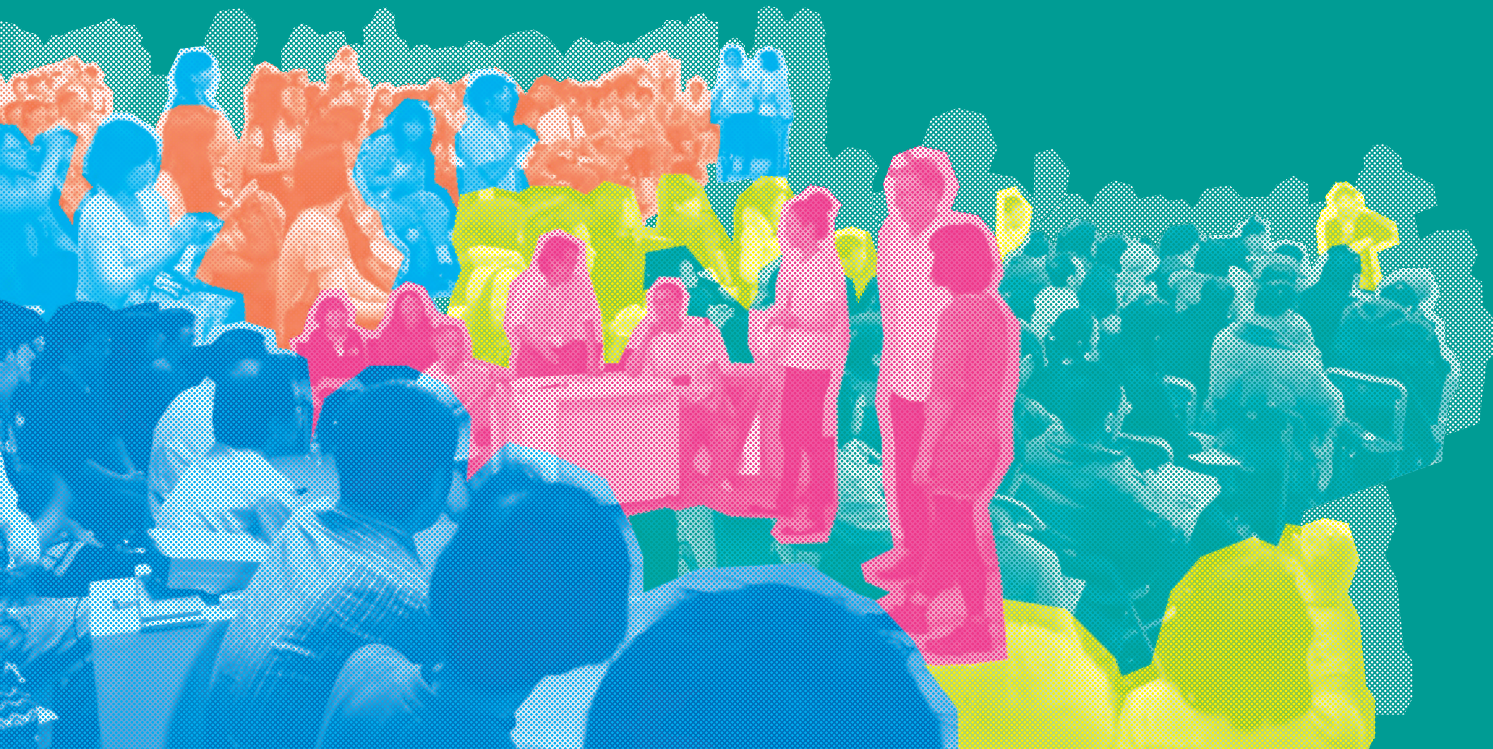
トリエンナーレスクール

トリエンナーレスクールは

2013年のあいちトリエンナーレに向けて、現代アートを楽しみながら学ぶレクチャーシリーズ

第一線で活躍するアーティストや専門家をお迎えし

現代アートをもっと身近に、おもしろく感じられるプログラムです



参加費：**無料** (申込不要)

会 場：**愛知芸術文化センター 12階／アートスペース A, E・F**  愛知芸術文化センター
開館20周年記念事業

2012年 **5月26日** [土] 14:00-15:30 アートスペースA (定員200名) **7月7日** [土] 14:00-15:30 アートスペースE・F (定員60名)

8月11日 [土] 14:00-15:30 アートスペースA (定員200名) **8月24日** [金] 19:00-20:30 アートスペースE・F (定員60名)

*当日は各開始時刻の30分前から受付を開始し、整理券を配布します。なお、受付は先着順で行いますので、定員に達した場合は入場をお断りすることがございます。

主 催：あいちトリエンナーレ実行委員会

©2013年8月10日 [土]～10月27日 [日] に**あいちトリエンナーレ2013**を開催します！

トリエンナーレとは、3年ごとに定期的に開催される国際芸術祭です。


あいち
トリエンナーレ
2013

Triennale School トリエンナーレスクール 前期プログラム (2012年5月-8月)

5月26日[土] 14:00~15:30 会場: アートスペースA

作品との対話について

現代アートは我々が生きる現代社会の複雑さを反映するために、しばしば難解に見えます。この現代アートを前に、どのような対話が可能なのかを探ります。

ゲスト: 白木栄世 (森美術館アシスタントエディター)
進行役: 住友文彦 (あいちトリエンナーレ2013キュレーター)

白木栄世 (しらき・えいせ)
1978年熊本県生まれ。森美術館学芸部アシスタントエディター。2006年武蔵野美術大学大学院造形研究科美術専攻芸術文化政策コース修了。2007年より現職。展覧会に関連するシンポジウム、ワークショップ、手話ツアー、学校プログラムなど、パブリックプログラムの企画・運営を担当する。



ギャラリートーク風景
(森美術館「東京-ベルリン展」2006年)

7月7日[土] 14:00~15:30 会場: アートスペースE・F

オープンアーキテクチャーの理念と実践

普段は開放されていない建物を一斉に公開して鑑賞するオープンアーキテクチャー・プログラム。日本における第一人者から、その基本理念と具体例を伺います。

ゲスト: 斉藤理 (山口県立大学准教授/建築史家)
進行役: 武藤隆 (あいちトリエンナーレ2013アーキテクト)

斉藤理 (さいとう・ただし)
1972年新潟県新潟市生まれ。山口県立大学准教授、中央大学社会科学研究所研究員。博士(工学)。東京大学研究員のほか、上智大学、慶應義塾大学などで講師を務め、2011年より現職。専門は建築史、観光まちづくり論。2007年より、日本初の建物一斉公開イベント「open! architecture」の企画・監修を務めている。2010年より東京都観光まちづくりアドバイザー。著書に『東京建築ガイドマップ-明治大正昭和』(共著)、訳書に『新しい住居~つくり手としての女性~』、『住宅』(いずれもタウト著)などがある。



自由学園 (設計: 遠藤新) 見学の様子
© open! architecture 実行委員会

8月11日[土] 14:00~15:30 会場: アートスペースA

3.11と美術

2011年に発生した東日本大震災は、美術館も含めた美術の現場にも様々な衝撃を与えました。気仙沼にある美術館でのその衝撃、そしてその後について伺います。

ゲスト: 山内宏泰 (リアス・アーク美術館学芸員/学芸係長)
進行役: 五十嵐太郎 (あいちトリエンナーレ2013芸術監督)

山内宏泰 (やまうち・ひろやす) = 山内ヒロヤス
1971年宮城県石巻市生まれ。リアス・アーク美術館学芸員。1994年宮城教育大学中学校美術教員養成課程卒業、同年10月より現職(現在同館学芸係長、気仙沼市在住)。スローフード気仙沼理事。平成24年度人間文化研究機構国立歴史民俗博物館共同研究員。専門は美術教育、造形理論、現代美術、地域文化教育、津波文化史研究と普及。著書に『砂の城』(山内ヒロヤス・森近代文芸社・2008)。東日本大震災による大津波で自宅を流失。



リアス・アーク美術館近郊
気仙沼市、内の脇の状況 (2011年4月5日)

8月24日[金] 19:00~20:30 会場: アートスペースE・F

釜山ビエンナーレ2010を経験して

釜山ビエンナーレ立ち上げに至った成り立ち、地域における国際展の意味合いなど、2010年に同ビエンナーレの芸術監督を務めた東谷氏に、光州ビエンナーレなど韓国内の他の国際展との比較を交えてお話いただきます。

ゲスト: 東谷隆司 (釜山ビエンナーレ2010芸術監督/インディペンデントキュレーター)
進行役: 坪戸雅彦 (あいちトリエンナーレ2013キュレーター)

東谷隆司 (あづま・たかし)
1968年三重県四日市市生まれ。インディペンデントキュレーター。東京藝術大学大学院修士課程修了(油画専攻)。世田谷美術館学芸員、東京オペラシティアートギャラリー、横浜トリエンナーレ2001スタッフ、森美術館キュレーターを経て、現在、フリーで展覧会企画、執筆活動を行う。主な展覧会企画に「時代の体温 ART/DOMESTIC」(世田谷美術館、東京、1999年)、「GUNDAM 来たるべき未来のために」(サントリーミュージアム天保山、大阪、他全6会場巡回、2005-07年)。「釜山ビエンナーレ2010」(韓国)では、芸術監督を務める。



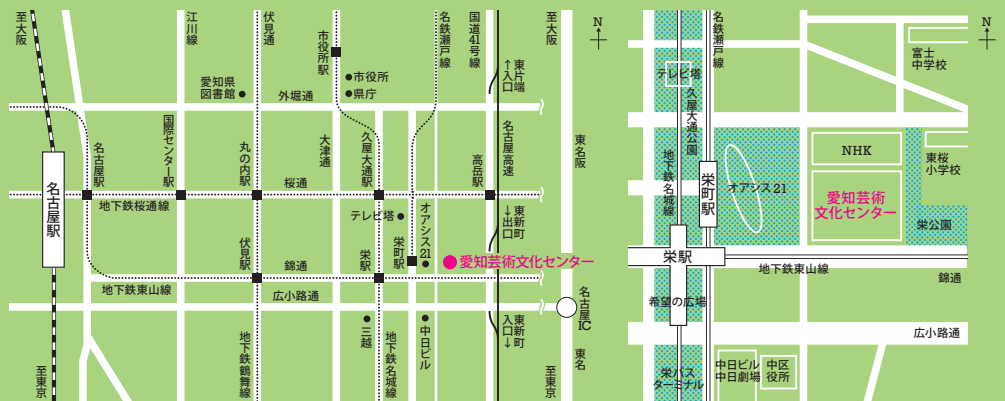
釜山ビエンナーレ2010での展示風景
(Zadok Ben-David, Evolution and Theory, 1995-98)
© ART'IT www.art-it.asia

問い合わせ

あいちトリエンナーレ
実行委員会事務局
〒461-8525名古屋市中区東桜1-13-2
愛知芸術文化センター 6階
TEL: 052-971-6127
FAX: 052-971-6115
E-mail: geijutsusai@pref.aichi.lg.jp
URL: http://aichitriennale.jp

会場

愛知芸術文化センター
愛知県名古屋市中区東桜1-13-2
地下鉄東山線、名城線「栄」駅下車、東へ徒歩2分



アシスタントの募集!

トリエンナーレスクールでは、7月7日、8月11日・24日の3回に参加可能で、スクール当日の準備、記録などを行っていただけるアシスタントを募集します。応募者の中から簡単な書類審査、面接の上、選考させていただきます。募集期間は5月26日まで。定員は3名。希望の方はgeijutsusai@pref.aichi.lg.jp宛にメールでお問い合わせください。